

競技運営に関する注意事項

- 1 本大会は、2023年度公認野球規則を適用する。
- 2 大会要項に定めた事項は、チーム全員に徹底すること。
- 3 ホームベースは、一般サイズを使用する。
- 4 全試合6回戦のトーナメント方式とする。また、試合開始後1時間30分を経過した場合、新しいイニングに入らない。均等回完了をもって試合を決する。
- 5 タイブレイク方式及び、特別継続試合は、連盟特別規則による。
 - ① 6回を完了して同点の場合または、試合開始後1時間30分を経過し同点の場合は、直ちにタイブレイク方式で試合を決する。ただし、6回完了時は9回まで、1時間30分経過後は3イニングを完了しても決着がつかない場合は、抽選で勝敗を決定する。

決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守のうえ、勝敗が決するまでタイブレイク方式を続行する。

タイブレイク方式は、連盟特別規則による継続打順で、無死1・2塁で行う。なお、各塁に位置する走者は、背番号をバックネット方向に向け、本部及び記録員の確認を受ける。
- 6 1人の投手の投球は、1日70球以内（小学4年生以下は60球以内）とする。試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。
- 7 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合には20秒以内に投球しなければならない。
- 8 申告故意四球は、守備側チーム監督が打者を故意四球とする意思を審判員に示し、一塁へ進むことが許される裁定である。守備側チームの監督が審判に故意四球の意思を伝えた場合（この場合はボールデッドである）、打者には、ボール4個を得たときと同じように、一塁（が与えられる。）へ進むことが許される。

※申告故意四球の確認事項

- ①打撃中に投球カウント途中においても守備側の監督が申告することが可能。
- ②守備側の監督から申告されれば、球審はボールデッドとして打者に一塁を与える。
- ③申告による四球は実際に投球されていない場合、その投手の投球数としてカウントしない。
- ④攻撃側チームが代打を告げた場合、先に代打の手続きを行ってから敬遠のリクエストを受ける。
- ⑤投手が交代した最初の打者が申告による敬遠で一塁に進んだ場合、投手は一人打者と対戦したとみなされ、交代することができるようになる。
- ⑥リクエストにより敬遠を行った場合、その時点でアピール権が消滅する。

- 9 守備タイムは、6 イニングで3回、延長は1 イニングで1回とする。
- ※監督の投手交代は除く。同イニングに監督が2回マウンドに行けば投手は自動交代。
- ※タイム中でなくても、マウンドに2人以上集まれば1回のタイムとカウント。
- ※攻撃タイムは、6 イニングで3回。（守備タイム内であればカウントしない）
- 10 大会出場チームの意匠は、次のことを留意すること。
- ①ユニフォーム、アンダーシャツ、帽子は全員同じものであること。ただし連合チームはそれぞれのユニフォームを着用することができる。
- ②県名は左袖につけること。
- 11 ベンチサイドは、組合せ番号の若い方を一塁側とし、決勝戦まで適用する。ただし、1チームが2試合続けて行う場合はベンチの入れ替えをしないことがある。
- 12 シートノックは、原則として行わない。
- 13 球場内でのフリーバッティング（穴あきボール、サンドボール含む）は認めない。
- 14 ベンチに入れる人員は、ユニフォームを着用した監督30番、コーチ28・29番及び選手25名以内と、チーム代表者、マネージャー、スコアラー、トレーナー（有資格者）各1名とする。ただし、監督及びコーチは成人でなければならない。
- 熱中症対策として保護者2名までベンチにはいることができる。
- 15 打順表は、会場到着後に大会本部から受領すること。
- 16 打順表の提出は、その日の第1試合開始予定の30分前までに、参加届に記載のある選手全員を記入のうえ、本部へ6部提出し、攻守を決定する。女子選手は、背番号に○印を付けること。4年生以下は、背番号欄右下に学年を記入すること。第2試合以降は、前の試合の3回終了時に行う。3回終了前に試合が終了した場合は、大会本部の決定した時刻による。記載が終了したら、参加届との照合のために時間を待たずに大会本部に持参すること。
- 17 試合開始時刻になっても、会場に到着していないチームは原則、棄権とする。
- 18 試合開始予定時刻前であっても、前の試合終了後20分で次ぎの試合を開始する。
- 19 雨天でも試合を執行する場合もあるので、必ず本部の指示を受けること。
- ※正式試合…5回とする。
- ※得点差によるコールドゲームの適用は5回を終了して、7点差が生じた場合。
- 20 次ぎの事項は、特に注意すること。
- 1) 投手であっても次打者席に必ず入ること。
- 2) ベンチでのメガホン使用は、指示用1個とする。又、電子機器類（携帯電話、パソコン等）の使用は禁止するが、電子スコア記録用として1台は認める。
- 3) グラウンド内のファールボールは、両チームで担当しボールパーソンに渡すこと。

- 4) 試合が終了したチームは、次ぎの試合のグラウンド整備に協力すること。
- 5) 攻守交替時に、守備終了チームの最終ボール保持者は、マウンドにボールを置いてベンチに戻ることにすること。
- 6) 練習中であってもユニフォームを着用しない者は、グラウンドに出ることは出来ない。
- 7) 試合が開始されたら、控え選手は試合に出場する準備（交代選手のキャッチボール）をしている者の他は、ベンチ内にいなければならない。
ただし、攻守交代時に限り、控え選手がファウルグラウンドで外野の方向へランニングすることを認めるが、控え選手がベンチを出て守備練習を見守ること、および投手の準備投球に合わせて素振りすることを禁止する。
- 8) 次打者は、次打者席でプレー及び打球に注視して待機すること。投球に合わせて素振りをしてはならない。また、次打者席でのマスコットバット等の使用は、プレーに支障の無いよう適切に処理すること。
- 9) 走者による足を高く上げてのスライディングや野手の空タッグは禁止する。
- 10) プレーヤーが塁上で腰を下ろすことは禁止する。
- 11) 打順表交換（3回終了時）後のブルペン使用は、先発バッテリー1組とする。
- 12) 試合中のベンチ前のキャッチボールは禁止する。ブルペンは、2組4名以内を認める。
- 13) 相手チームや審判に対する聞き苦し野次等は、禁止する。
- 14) ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を萎縮させるような言動を禁止する。
- 15) 試合のスピードアップには、全員で励行のこと。
- 16) 抗議は、監督か当該プレーヤーのうち1名とする。
- 17) 打者走者は、本塁・一塁間後半の、スリーフットライン内を走ること。
- 18) ロージンバックは、投手後方のバッターの視野に入らない位置とし、手に持たず指に触れる程度とする。
- 19) 競技場内に、ダートサークルを設けることとし、その意味を理解すること。
- 20) 打者、次打者、走者及びベースコーチは必ずヘルメット（両耳）を着用すること。また、捕手及び控え捕手は、プロテクター、レガース、マスク（スロートガード付）、捕手用ヘルメット及びファールカップを必ず着用すること。
- 21) イニング間の投球練習の捕手及び試合中のブルペンでの捕手は、選手以外にコーチを認める。ただし、捕手またはブルペン捕手以外の選手、又はマスクを付けないコーチが行う場合は、キャッチボールのみとする。この場合も準備投球数に数える。（本大会のみ適用）
- 22) 監督・コーチ・選手のユニフォーム・帽子は、全員同じであること。ただし、連合チームはそれぞれの所属チームのユニフォームを着用して出場できる。

- 23 雨天の際は、午前7時に実施の可否を判断するので、それ以降に、会場責任者に必ず確認すること。
- 24 試合開始の整列は、廃止前のJ S B B感染予防対策ガイドラインのとおりとする。各会場担当者の指示に従うこと。
- 25 基本的感染予防措置の「手洗い」「うがい」「咳エチケット」を引き続き行うこと。
- 26 体調がよくない場合は、出場を控えること。
- 27 その他、記載のない事項については、2023競技者必携に準ずる。